未来の先生展
2017

いま、ＴＯＫが面白い

～『セオリー・オブ・ナレッジ　世界が認めた「知の理論」』第３部のその後～

パネルディスカッション講演形式

開催日時	2017年 8月 27日(日) 12:30-14:00
場　　所	武蔵野大学有明キャンパス 1号館3F 307教室
司 会 者	教育ジャーナリスト　後藤健夫

内容

ピアソン・ジャパンから『セオリー・オブ・ナレッジ　世界が認めた「知の理論」』を出版した。この本は三部構成になっている。第一部は、海外でＩＢやＴＯＫに関わる日本人教員にその様子を伺った。第二部では、世界のＩＢ校で使われているを翻訳してＴＯＫとはなにかを説いている。第三部では、この３人で鼎談をしている。日本においてＴＯＫがどのように定着するのだろうかを視野に入れて、ＴＯＫの授業の様子や意義について話し合った。あれから約２年。いま、ＴＯＫはどのように日本で定着を始めたかを話題としつつ、ＴＯＫの理解を深めたい。

ここに注目！

ダッタ・シャミ先生は東京学芸大学で教員を務めながら国際バカロレア機構の仕事としてＩＢ校の設置をサポートしたりＤＰ教員の養成に尽力したりしている。福島浩介先生は広島県福山市でデュアルランゲージでＤＰを展開。念願叶い、ＴＯＫの授業を担当。それぞれ大阪の関西学院千里国際中学・高校を離れて、日本のＩＢの発展のために新たな展開を始めている。この二人がいまどのようにＴＯＫやＩＢを捉えているのか。特に、次期学習指導要領改訂に合わせて、高校の国語の教科書にＴＯＫの要素を取り込もうとする教科書会社があったり、岡山大学や灘高校で、ＩＢ校ではないにもかかわらず授業に取り入れたりする動きが出てきているが、この様子はお二人の目にはどのように写るのか。そうしたことを話のメインに据えながら、自称・漫才トリオ「ざ・壁紙」として、楽しくディスカッションしたい。

登壇者

ダッタ・シャミ

東京学芸大学　教職大学院　准教授
国際バカロレア教員養成ディレクター

インド出身、13歳時に来日。国際基督教大学を経てブリティッシュ・コロンビア大学で修士号を取得。2016年3月まで関西学院千里国際中等部・高等部および大阪インターナショナルスクールにて日英両言語でIBDP、地歴・公民科を担当。国際バカロレア研究主任、学年主任などを務める。現在、東京学芸大学教職大学院准教授。IB教員養成・IBDP研究担当。IB機構でDPワークショップ・リーダー、確認訪問委員を兼任。趣味はスポーツや寺社巡り。（上記写真：右）

福島浩介

英数学館高校　国語科
DPコーディネーター（日本語）

1991年の開校当時から長らく関西学院千里国際で国語科の教諭として勤務。キャンパスを共有する大阪インターナショナルスクールが当初からIB校であったためIBには親しんでおり、教務センター長として2012～14年にIBに関する文科省委嘱研究に取り組む。今年度、英数学館高校が英語と日本語のDPを開始するにあたってTOKの担当として赴任。来年度以降、日本語Ａ「言語と文学」も担当の予定。（上記写真：左）

後藤健夫

教育ジャーナリスト＆アクティビスト

大学卒業後、河合塾に就職。独立後は、大学コンサルタントとして、有名大学などの AO 入試の開発、入試分析・設計、情報センター設立等に　関与、塾・高校の進学アドバイザーも。早稲田大学法科大学院設立に入試設計・募集担当として参加。『セオリー・オブ・ナレッジ―世界が認めた「知の理論」』(ピアソンジャパン)を企画・出版。『カレッジマネジメント 202 号』「インターナショナルバカロレ ア(IB)日本での現状を探る」ほかを執筆。（上記写真：中）